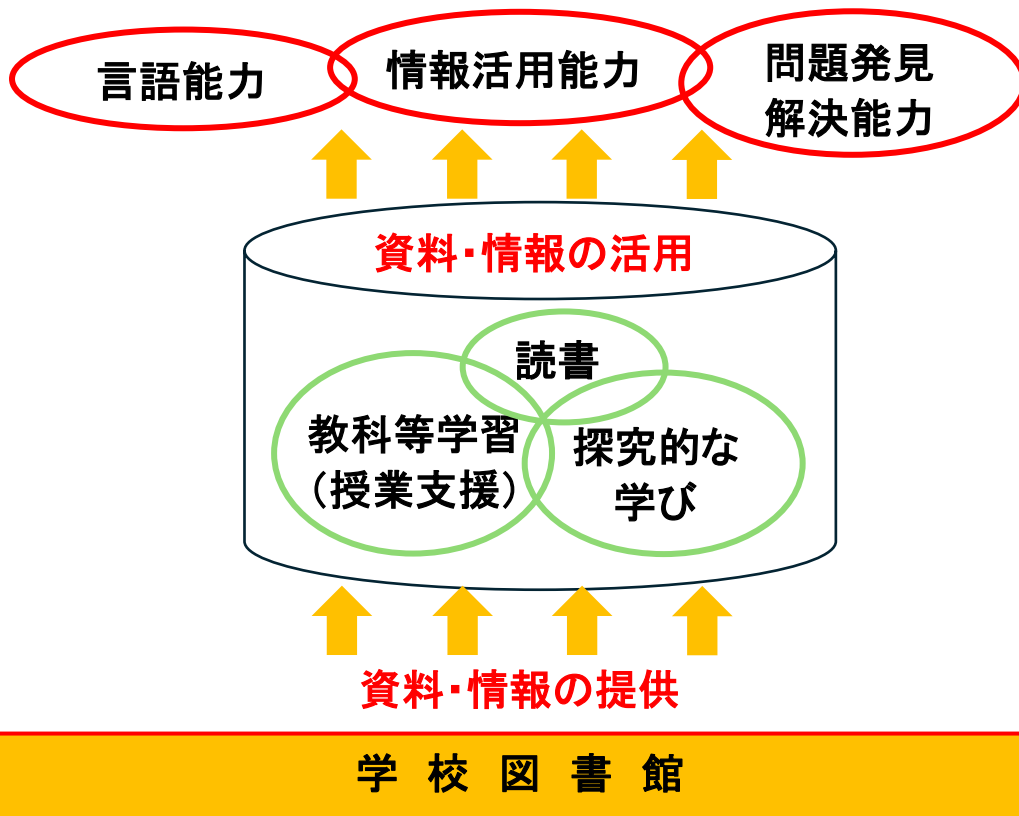


校長(学校図書館長)のリーダーシップで

学びのアップに学校図書館活用を！



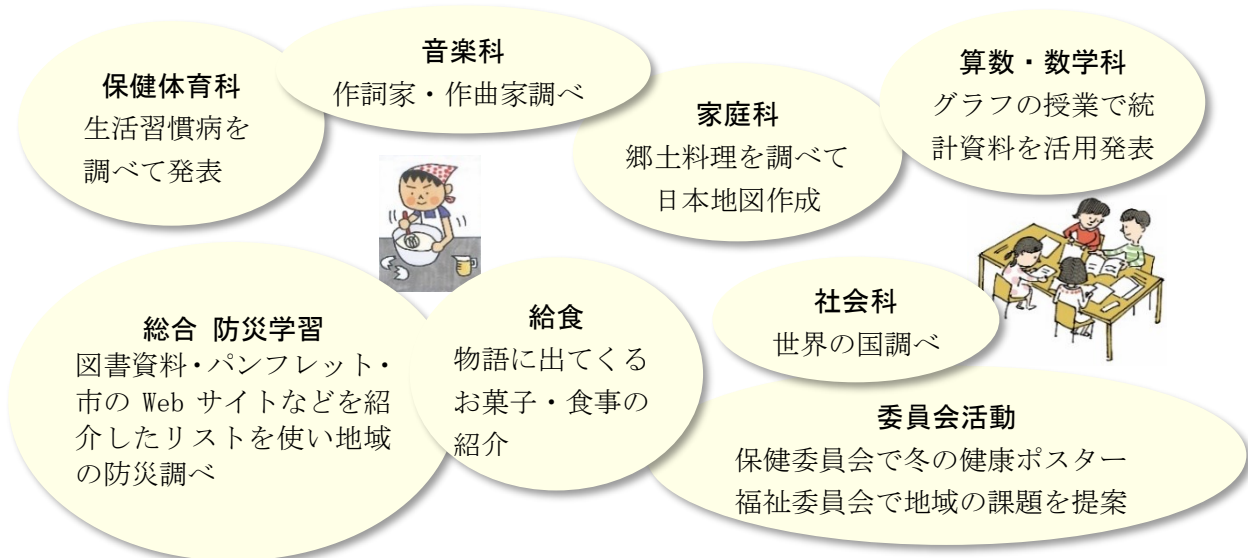
新たな情報を取り入れたことがきっかけとなって、思考が進みます

読書活動や、教科等学習や、探究的な学び等において
学校図書館は、資料・情報を提供して

学習の基盤となる資質・能力の育成を支えます



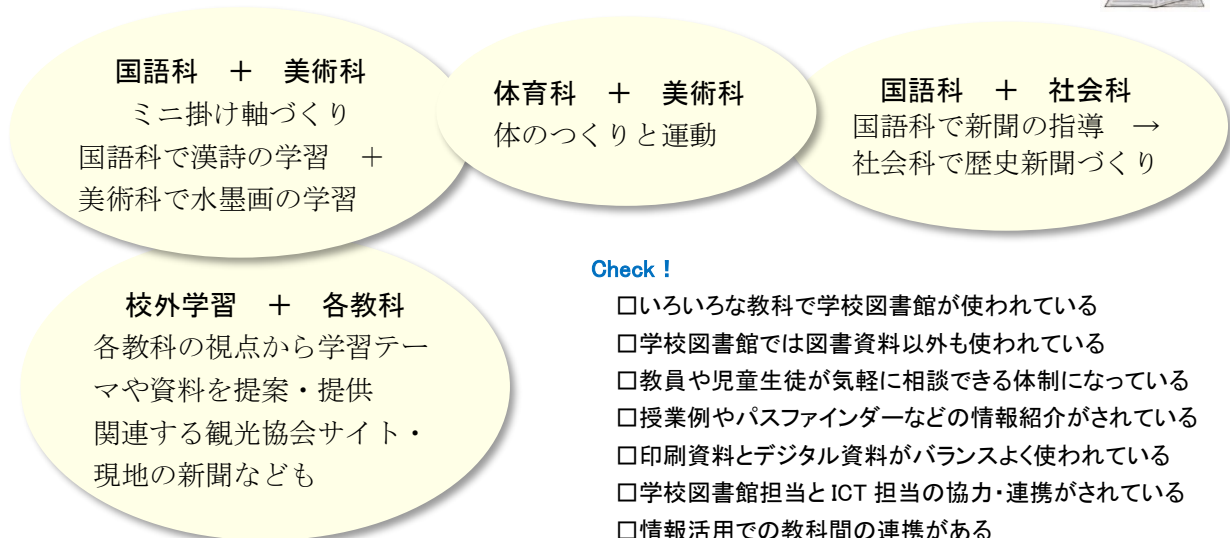
1 いろいろな教育活動で学校図書館は使われています



学校図書館の活用というと国語や社会、総合などを思い浮かべることが多いと思いますが、**どんな教科でも、また特別活動などでも**使っています。
ここで例にあげた委員会や給食だけでなく、もっと可能性が広がります。



使った資料などを学校図書館で保存しておけば、
他の教科、道徳や総合などでもまた使えます。



Check !

- ☐ いろいろな教科で学校図書館が使われている
- ☐ 学校図書館では図書資料以外も使われている
- ☐ 教員や児童生徒が気軽に相談できる体制になっている
- ☐ 授業例やパスファインダーなどの情報紹介がされている
- ☐ 印刷資料とデジタル資料がバランスよく使われている
- ☐ 学校図書館担当と ICT 担当の協力・連携がされている
- ☐ 情報活用での教科間の連携がある

学校図書館が間に入って情報交換ができると、教科横断学習もやりやすくなります。
授業例、Web サイトや資料、教科間の関連内容などを先生たちに紹介すると、

学校図書館がハブになって教科をつなぐことになります。

教科横断学習やカリキュラム・マネジメントにも貢献！

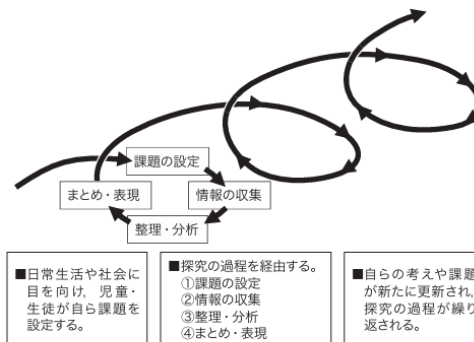


2 学校図書館は探究学習の強い味方

もともと学校図書館では本の探し方や著作権などの指導をしてきました。端末の活用でデジタル情報が増えても、情報の指導に変わりはありません。本だけでなく、司書教諭や学校司書は情報の扱いの専門家 なのです。

課題の設定 本当に調べたいこと・知りたいことを見つける手法も提案できます。

情報の収集 本の探し方だけでなく、Web サイトや体験施設などの相談も。パスファインダーで調べ方の提示や、Web サイトの検索のキーワードの入れ方なども支援できます。



探究的な学習における生徒の学習の姿

（文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より）

思考ツール 課題の設定や整理・分析などの便利なツールも提案できます。

整理・分析 全体の構成や説得力を増すための方法なども相談できます。

著作権、引用 学校図書館は図書資料の著作権だけでなくデジタル情報やインタビューなども含めた指導をしています。レポートでの引用の書き方などもすべての教科に必要なことです。

ほかにもいろいろお手伝いできます。ぜひ相談を。



3 資料・情報の活用の学びを全校で系統的・計画的に進めよう

資料・情報活用は、右図のように考えることができます。

①	資料や人の話、インターネットなど、何らかの情報源から必要な情報を抽出して、自分のなかに取り入れる（インプットする）
②	取り入れた情報を、思考力・判断力・表現力等を駆使して咀嚼し自分なりに情報を再構築する。
③	自分なりに考えたことを発信したり行動に移したり（アウトプット）する。



こうした資料・情報活用の体験を多くの教科等の学びのなかで積み重ねることで、児童生徒の思考力は深まり、「自ら学ぶ力」が醸成されていきます。

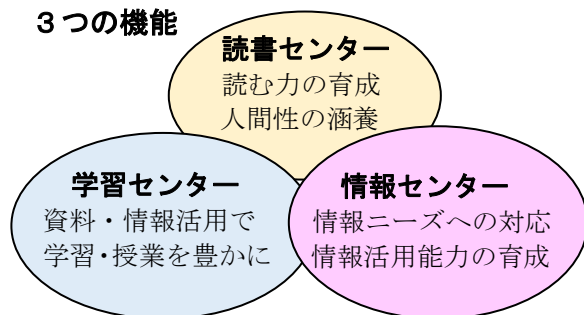
資料・情報活用には、情報スキルを教える必要があります。これはどの教科にとっても共通に必要な基盤となる力です。この情報スキルの指導は、個々の教職員が必要に応じて指導すると、指導内容に過不足がでてきたり、教える順序がバラバラになったりします。これを全校で系統的・計画的に進めるには、教科横断的視点を持ち、多様なメディアの資料・情報を収集・提供している学校図書館が役に立ちます。



4 学校図書館は、3つの機能を持つ教育のインフラです

教育のインフラとして学校図書館を学校経営に位置づけます

3つの機能



○学校図書館は「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備」(学校図書館法)、校長は「学校図書館の館長」(学校図書館ガイドライン)です。

○資料・情報の活用により、言語能力や情報活用能力など学習の基盤となる能力・資質を育成します。

○学校図書館は3つのセンター機能を持っています。

○学校図書館は各教科、学年にも必要な資料を収集・提供します。つまり、教科横断的に学校全体の教育課程を支えています。

○学校図書館では、授業等に役立つツールを作成して、印刷物でも端末にでも提供します。

例) 作者別・テーマ別ブックリスト／テーマや単元別等のパスファインダー／思考ツールなど

学校図書館の資料とは… 本だけでなく、多様な資料・情報があります

アナログもデジタルも学校図書館資料です。

図書資料	ネットワーク 情報資源
雑誌・新聞	ファイル資料
視聴覚資料 (CD、DVD 等)	自校独自の 資料
電子資料	実物

○連携で資料確保 (地域公共図書館・郷土資料館/博物館/美術館/音楽堂 等)

○著作権法 35 条改正により、補償金を支払えば、ICT を活用して児童生徒の端末に著作物が送受信できるようになりました (授業目的公衆送信補償金制度)

※補償金は、教育機関の設置者がまとめてサートラス (授業目的公衆送信補償金等管理協会 <https://sarttras.or.jp/>) に支払っています。

学校図書館は資料を提供してすべての授業・学びを支えます！

○授業で使えるように蔵書配分の比率を考慮した蔵書構築を！

自校の蔵書配分比率を確認してみましょう。

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計 %
小学校	6	3	16	10	16	6	5	8	5	25	100
中学校	6	5	16	10	15	6	5	8	4	23	100
高等学校	7	7	16	12	14	6	4	8	7	19	100
自校											100

全国学校図書館協議会作成 (学校図書館メディア基準より) 2021.4 改訂

館長＝校長です リーダーシップを発揮

- 基盤的となる能力・資質の育成は、個々の教員の取組みだけでは限界があります。校内全体でどんな力をどのように育成するかは共通認識が必要です。
- 学校図書館活用を計画的組織的に推進するための「学校図書館運営委員会」を設けます。これは、館長（校長）を委員長として、教頭・司書教諭・主幹教諭・情報教育担当教員・学校司書・学年代表教員等から構成します。
- 基盤的能力の育成を、全学年にわたり系統的に計画的に行うために、カリキュラム・マネジメントが必要です。
- 全校で検討して、各教科・各学年の年間指導計画をもとに、学校図書館を活用した年間指導計画を作成します（p.7 参照）。

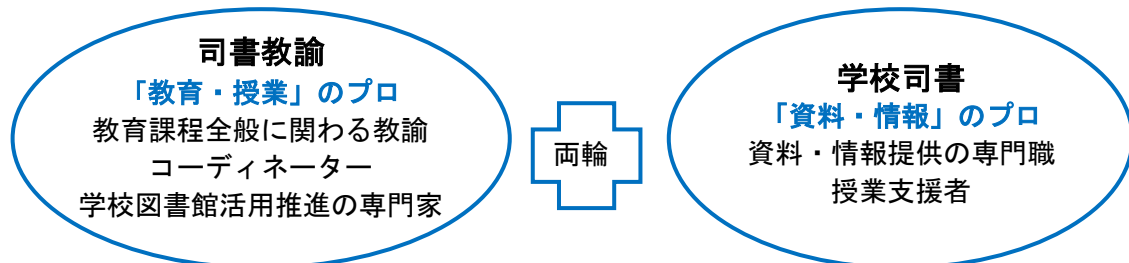
Check！ 学校図書館長の具体的取組・例

- 学校経営の中に学校図書館が位置づけている
- 活用できるように学校図書館整備を進める
- 校内巡視に学校図書館を入れる
- 学校図書館を活用した授業の様子を見る、紹介する
- 職員会議、全校朝会、保護者会、学校だよりなどで学校図書館の役割や重要性、様子について知らせる 等
- 著作権を意識している



5 学校図書館には、「人」の力が必要

司書教諭と学校司書の働きと役割



○「司書教諭」は、教育委員会や校長より、発令された教諭です。

- ・学校図書館経営・運営
- ・教育活動の企画・実施・連絡調整
- ・年間読書指導計画の立案
- ・年間情報活用指導計画の立案
- ・学校図書館を活用した授業の実施と他教員への助言

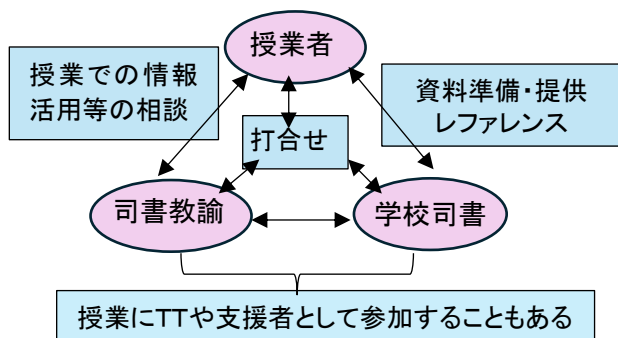
○「学校司書」は自治体や学校が雇用する学校図書館の業務に携わる職員です。

- ・学校図書館運営の専門的・技術職の遂行
- ・学校図書館を活用する授業に司書教諭と共に支援
- ・教育（教科・特別活動・利用指導）への支援
- ・児童生徒教員への閲覧・貸出等
- ・蔵書の収集・管理、施設・設備の整備

司書教諭のほか「図書館主任」もあります。学校図書館教育部の代表者として、司書教諭や学校司書と協働し実務を担当します。
司書教諭が図書館主任を兼ねることもあります。

文部科学省の「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」では、「学校図書館業務を受託する事業者が雇用する者は」学校司書に「該当しない」と明記されています。（調査依頼書に掲載の「調査質疑応答集」から）

授業者と司書教諭と学校司書の協働



Check !

学校図書館長(校長)に望まれる支援例

- 司書教諭の活動時間を確保する
- 司書教諭・教員と学校司書との打合せ時間を設定する
- 職員会議、学年会・教科部会に参加できるなど、学校司書が十分に活動できる勤務体制を設定する
- 校長の指導や教務・教科指導の支援が行き届くように、学校司書も校内システムにアプローチできる体制にする
- 情報教育担当者・ICT 支援員・学校図書館ボランティア・地域公共図書館・他校学校図書館等との連携を推進する



6 教育目標達成、授業改善のために計画を

学校図書館スタッフの専門性を活かし、全教職員で全体計画・

年間授業活用計画等を立案、「読書力」「情報活用力」「課題解決力」の向上へ！

○学校図書館全体計画作成

学校教育目標を達成するために学校図書館はどう目標を立て、どのように取り組んでいくかを立案します。

○学校図書館を活用した全教科の授業活用の年間計画

各教科でいつどのような学校図書館活用をしているかを一覧できる年間計画表は、教職員にとって、学校全体の指導内容・進捗状況が把握できる便利なものです。

次ページに例示した年間指導計画は、以下のような特徴があります。

- ・ 月ごとに計画していて、一覧性の高いものです。
- ・ 探究活動の目標が A から I まで設定されています。
- ・ 特に情報活用能力と読書活動を併記し授業内容に関連する資料リストや資料のブックトークや味見読書等で、多様な読書体験が広がる年間計画です。
- ・ 特に中学校では、他教科・他学年の授業計画が一覧できるので、学年内で複数教科の関連性が読み取れ、3 学年の情報活用の視点での教科横断型授業が計画可能になります。
- ・ 授業経過や結果、使用したブックリストやパスファインダー等も他教科や学年で再活用できる等、赤字で振り返りや変更点を記録することで、授業の改善が可能です。
- ・ また、学校図書館行事と授業計画が重なる場合などもあり、準備がしやすくなります。「課題設定」「情報収集」「整理、分析」「まとめ、表現」がスパイラルに繰り返されるように全学年分も調整します。

【校長向け】「学校図書館活用の重要性をどう説明する？」（パンフレット）案

○P D C A サイクルを忘れずに

学校図書館長（校長）は全教職員に次年度に向けた改善点を記録していくことが学校図書館の全体計画等を達成できる手立ての一つであることを伝えていきます。また、学校評価の学校図書館の評価項目には、貸出冊数だけでなく学校図書館活用時数を入れたいものです。

学校図書館を活用した年間指導計画 4年														
重点目標	育てたい子ども像			◆いろいろな種類の本を読み、課題解決に向けて、友達と関わり合いた										
	学校図書館を活用することで身に付けさせたい情報活用能力	探究活動	課題の設定	A 興味・関心に応じて具体的な課題を決める。										
			情報の収集	B 目的に応じて、複数の資料の中から必要な資料を選ぶ。 C 二つ以上の情報の中から、目的に合ったものを選ぶ。										
			整理・分析	D 必要な情報を箇条書きで要点をまとめる。										
			まとめ・表現	E 相手や目的に応じて適切な表現方法を選んで表現する。 F 自分の考え方が分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じて伝達する。 G 具体的な課題を決め、内容の見通しをもって計画を立て、課題解決でできたか振り返る。 H 友達の表現のよさについて意見を述べ合う。										
読書活動			I 並行読書等、発展的な読書により、単元内容を深める。											
教科・領域	特別活動		図書館オリエンテーション 図書館の使い方や、本の分類について知る。 [読書ノート]①②③④	AB C	なかよし班の計画 A～F	みんな遊ぼう・下田について調べよう A～H	下田について調べよう A～F	係活動を計画しよう A～C	AB C	たてわり班の計画 A～F	お楽しみ会の計画をしよう A～C			
	総合的な学習の時間				なかよし班で行う遊びについて考える	みんなで楽しめる遊びについて調べる	下田について調べる	自分の係に関係あることを調べる		たてわり班で行う遊びについて考える	みんなで楽しめる遊びについて調べる			
	国語		白いぼうし・詩 図書館の達人になろう お楽しみ会とそんぷのえ。並行読書。 [読書ノート]①②③④	AB GI	漢字辞典 B	一つの花・つなぎ言葉 I	新聞を作る・本のポップや帯をつくらう A～I	詩・パンフレットを読む A～I	BC I	ごんぎつね・クラスみんなで決めるには B・C	お楽しみ会とそんぷのえ・詩 A～G			
	社会		都道府県を調べよう 都道府県について調べる	AB C	水はどこから A～F	ごみの処理と利用について調べる	ごみの処理と利用について調べる	自然災害からくらしを守る A～F	A～F	東京に残る「くらやみ祭」 A～E	玉川兄弟と玉川上水 A～E			
	算数		大きい数のしくみ 各国の人口について学習を深める 年鑑	I	折れ線グラフと表 各地の天気の変化を調べる	B	わり算の筆算(1) わり算の計算の方法を調べる そろばんの仕組みや使い方を調べる	B	角の大きさ 小数のしくみ E～H	I	角の周りの四角形を調べる 垂直、平行と四角形 分数	B		
	理科		天気と気温 他府県の天気や気温を調べる	B	季節と生物 春 季節の生物の様子について調べる	B	電池の働き 季節の生物の様子について調べる	B	星の明るさや色 様々な星や星座について調べる	B	季節と生物 夏の終わり 季節の生物の様子について調べる	B	月と星の位置の変化 わたしたちの体と運動・季節と秋	B
	音楽						ちいせにつたわる音楽に親しもう 地域に伝わる民謡や郷土芸能について調べる	C			ちいせにつたわる音楽に親しもう 地域に伝わる民謡や郷土芸能について調べる	C		

学校図書館活用や ICT 活用などを統合して

学校全体で計画的・系統的に情報教育を進めましょう

最近、各学校や自治体において、「学習の基盤となる資質・能力」として学校図書館活用教育と ICT 活用教育等を統合的にとらえる動きが見られます。横浜市教育委員会では、情報教育と学校図書館教育を統合した「情報活用能力」の体系表を発表しています。大阪府教育委員会では、①学びスキル、②学校図書館活用スキル、③ICTの基本操作スキル、④情報モラル・情報セキュリティ、⑤プログラミング、の5つを統合した情報活用能力を育成しようとしています（「大阪府情報活用能力ステップシート」 [osaka_jyohokatsuyounouryoku.pdf](#)）。

児童生徒が情報メディアの特性を知って使い分ける力を育成するには、ICT 教育担当者と学校図書館担当者が協働して、あるいは両者を統合して情報教育を進めることが必要です。



7 特別な支援を要する子どもたちも対象

すべての児童生徒が、自分にあった手段で、本を読んだり情報を得たりすることが必要です。特別支援学校だけではなく、学校によっては特別支援学級もあります。さらに通常の学級にも学習や行動に困難のある発達障害の可能性のある児童生徒が 8.8%存在するとの文部科学省（2022 年）の発表もあります。さまざまな障害のある人が利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指し、2019 年には「読書バリアフリー法」（通称）が成立しました。また、2014 年には「教科書バリアフリー法」（通称）が改正され、日本語指導が必要な外国籍・日本国籍の児童生徒にも教科書のデジタルデータを使用して学習することができるようになりました。

学校図書館は、一人ひとりの読書や情報獲得の困難から生じてくる必要性に応じて、特別なメディアや支援を適切に提供していかなければなりません。

学校図書館にありますか？

読むための補助具

□リーディングトラッカー：本文の上に重ねることで、上下の文書が隠され、読みたい 1 行だけが透過して見え、視点を集中させて読むことができます。障害が無くても集中して読書したい時に活用できます。

□リーディングループ：リーディングトラッカーと同様に使え、文字が拡大されます。

読むための資料

□大活字本 □LL ブック □点字図書・点訳絵本 □手話付き DVD □布の絵本・さわる絵本 □多言語電子絵本 □DAISY 図書：Digital Accessible Information System]（アクセシブルな情報システム）の略称。

- ・音声 DAISY（録音図書）：図写真の説明も目次やページ情報もある。音声の速さの変更も可能
- ・マルチメディア DAISY：文字や画像をハイライトしながら、その部分の音声と一緒に読むことができる。文字の大きさや背景の色も変えることが可能

8 AIと生きる時代、すべての土台が言語能力・読解力

AI の急速な発展の中で、人間の強みを発揮するための基盤が言語能力であり、読解力です。年齢に応じて語彙を増やし、想像力、論理的思考力、表現力等を伸ばしていくことが重要です。情報を活用するにも言語能力が基盤です。今、言語能力の育成は最大の課題です。全教科・全教育活動を通じて、言語能力育成に取り組む必要があります。学校図書館を核にしなが

「電子書籍」、でも、考慮しましょう発達段階！

深い思考は紙だからこそです。紙には操作性があり、視覚、触覚、聴覚等の刺激が記憶にも影響をあたえます



子どもたちが、将来、紙とデジタルと使い分けができるように学齢が低いうちは紙の経験を十分させましょう。そして、読む力も、思考力もつけられるようにしていきます

デジタルの使い過ぎは健康によくないという調査結果もあります